



星空ワークショップ

8月22日(火)
旧暦七夕の星空
観望会



あいにくの曇り空...

連日三十五度超の猛暑が続いていた昨年の八月二十二日、この日は夕方に雷雨となり、少し気温が下がった午後七時から、下布田遺跡に隣接する郷土博物館分室で「旧暦七夕星空観望会」が開催された。実はこの催し、下布田遺跡の史跡整備に際して広く市民に関心を

持つてもらおう目的で、令和五年度中に全七回計画されている市民ワークショップの三回目当たるもの。市民ワークショップの中には整備計画プロジェクトの検討や意見交換と言ったお堅い内容もあるのだが、下布田遺跡に親しんでもらう観点から遺跡に生えてい

【二面に続く】



【布田小 秋まつり】



【地域運動会】



【わくわくひろばまつり】



【オモロー 飯盒炊飯】



続々と復活

地域イベント

ハッピーうさこ
キャラクター紹介



当地区協が発足した当時に、布田小学校で飼っていたうさぎをイメージシンボルにしました。

能登半島と日航機

元旦から能登半島地震のニュースが飛び込んだ。厳冬期に倒壊した家屋の下敷きになって亡くなった多くの方々に、深くお悔やみ申し上げます。ともに戻れない被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

次の日、日航機と自衛隊機の衝突で燃えあがる機体から日航機乗員乗客全員が無事だったというニュースと機内の映像。乗員の冷静正確な判断と対応、座席を立たずにその指示に従う乗客の信じる力と忍耐力が相まっての大脱出劇。それも日頃の厳しい訓練があったからこそものだったに違いありません。

ここ数年はコロナ禍でこの地域でも防災避難訓練を実施できませんでしたが、地震、浸水害はいつ起きてもおかしくありません。いざというときに、日頃の地域のネットワークを生かした災害対策ができるよう来年度から防災訓練を復活させたいと思います。

皆さんが愛するこの地域の願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会
会長 依田 耕児

みまもり安心アテンド急募!

朝の登校時の通学路みまもりボランティア

布田小学校への朝の通学時のみまもりボランティアを下記2箇所(1名ずつ)で急募しています。
朝7時45分～8時15分の約30分間、通学する児童を要所の道路に立って見守ります。

- ①布田小学童前横断歩道付近
- ②白山宮神社横断歩道付近

毎日だけでなく結構ですのご関心のある方はどうぞお問い合わせください。
(布田小副校長 石津 481-7652)

10筋

10の筋カトレーニング ・・・フレイル予防・・・

【2024年4月～9月日程】

- 4月 12日 / 26日
- 5月 10日 / 24日
- 6月 14日 / 28日
- 7月 12日 / 19日
- 8月 9日 / 23日
- 9月 13日 / 27日

10時～11時半、参加申込不要、直接会場(布田南部自治会館)に来てください。



10筋を紹介した動画もありますので覗いてみてください。

漢検サポーター

地域学校協働本部

2月17日(土)に布田小にて第5回日本語漢字検定が行われました。この広報誌で募集した漢検サポーターのご協力をいただいて102名の布田小児童が受検。年2回開催のお手伝いいただける方を募集しています。
詳細は地学協コーディネーター 山本(090-9140-1891)



写真は第3回漢検(昨年2月18日)の受検風景

【ハッピー子ども食堂】が4年ぶりに復活

ハッピー子ども食堂

一月二十七日(土)、ハッピー子ども食堂が開催されました。コロナ禍での中止から4年ぶりの復活です。会場の自治会館にはウェブで事前に申込をした子どもたち約五十名が手作りのカレーを美味しく食べました。会場の都合により人数制限があるため、参加対象が限定されていますが、少しずつ参加定員を増やしていけたらと思っています。久しぶりに集まったボランティアの皆さんも大変楽しそうに調理配膳をしていただき笑顔の一日でした。



はっぴーなきずな

PTAの活動を通して、多くの方が地域の為に様々な活動されている事を知ることができ、一緒に活動させていただく機会では、学びの多い時間を過ごすことができました。自分が出来ることは何か? 改めて考えるきっかけとなりました。(長谷川みお)

布田小学校学童の毎朝の通学見守りを始めてから12年が経ちました。当時の一年生の皆さんはもうすぐ成人ですね、私も後期高齢者の仲間入りです。毎朝出会った皆さん、これからも一緒に頑張りましょう。(山本光則)

運営委員募集中!

- ★年6回の運営委員会
- ★防災教育の日 避難所訓練
- ★地域の安全安心活動

お近くの上記運営委員にお尋ねください

布田小地区ハッピータウン協議会
ホームページ
<https://happy-usako.jp>
スマホ対応で見やすくなりました

る樹木について専門家に聞いて見ようといった企画もあり、今回は下布田遺跡周辺に住んでいた縄文人が見上げた星空に想いを馳せてみようという趣旨。参加されたのは整備計画プロジェクトの市民メンバーを含め、数名の子ども達と約二十名の方々。同じ頃遺跡では、アトリちゃん・ユキちゃん二頭のヤギさんによるエコ除草も進んでおり、遺跡周辺は心おむ夏のひとつの味わいだった。

お話ししてくださいましたのは私立明星学園中学校の社会科教師を経て、今は多摩川名月祭を主催されている古川博資（ひろすけ）さん。七夕は五節句の一つというお話から始まり、古くは世界のほとんどの民族と同様、日本人も見た目に周期的な変化が分かりやすい、月の満ち欠けに基づいた暦（旧暦、太陰太陽暦）を使って来たというお話。しかし、明治五年（1872年）になって明治政府は当時ヨーロッパの先進国で使われていた太陽暦への切り替えを決定、自動的に五節句など旧暦で決まっていた日付をそのまま太陽暦（新暦）に持ち込んでしまったために、いわゆる季節感とのずれが生じてしまった。この辺りのことは漠然と頭の片隅で理解していたこと。



古川さんの七夕の歴史のお話

（わし座のアルタイル）と織姫（こと座のベガ）は、なかなか中天の見やすい位置に登って来ない。それが旧暦の七月七日、2023年の八月二十二日頃になるとちょうど真上の見上げた辺りに輝き、加えて七日目、つまり新月から七日目の月、三日目よりも太くなった舟形の月が、天の川に重なって見えるのだ。これこそが古代から歌にも詠まれた、織姫と彦星が年に一度だけ、天の川を月の舟で渡って（どちらが乗るのだろうか？）逢いに行くというロマチックな伝承の由来なのだ。下布田遺跡周辺で暮らしていた縄文人も、旧暦七月上旬の夜空を見上げると明るい星二つが天の川を挟むように輝き、その傍らに舟の形をした月が漂う天体ショーを眺めていたことだろう。

（文・藤田秀雄）

調布のボランティアの雄、ここにあり！



下布田遺跡 いきもの係 シンボルマーク

地域の活躍びと

希望の家深大寺に朝日さんをお訪ねしたところ、あいさつ代わりにと渡された名刺の肩書には、下布田遺跡いきもの係とあった。正式な役職名ではなさそうだが、すっかりお馴染みになった下布田遺跡エコ除草の主役、ヤギさん達の世話人を買って出た下布田さんだ。お会いしているいきもの係に至った経緯などをお聞きすると、まさに持って生まれたようなボランティア魂と、今必要とされるもの・ことを見分ける鋭い感覚をお持ちの方だった。

朝日さんは石原小から調布中学、生まれたのも富士見町の産院、という生粋の調布っ子。当時、調布中学で支援級の生徒さんと先生に共感されて、考え方や精神面で大きな影響を受けたとのこと。

大学では福祉関係の学科を専攻され、卒業間近の頃に希望の家の前身の福祉作業所で実習を行った際、中学で知り合ったあの生徒さんと先生に再び出会い、運命を感じそのまま就職、調布市社会福祉協議会（社協）の職員になられた。現在、希望の家は市の事業である本場と分場に加えて、二〇一三年に社協独自事業の希望の家

白山宮こども祭り

四年ぶりの開催 太鼓・おみこしの巡行も

猛暑の夏がまだまだ続いてきた昨年九月九日と十日の週末、当地区協のほぼ中心に位置する白山宮で2019年以来四年ぶりとなるこども祭りが実施された。お祭り運営の中心を担う布田南自治会役員の方々にとっても四年ぶり、「帰って来た白山宮こども祭り」と大書されたポスターそのままに、四年前のことを思い出しながら準備に余念がなかった。



特に子供たちが担ぐおみこしは、2020年に調布市のコミュニティ助成事業から補助金を受けて、約五十年ぶりに大修繕を行い見違えるようにきれいになったもの、コロナ禍のため三年間祭礼の中止が続き、このお祭りが初のお披露目となった。

九日（土）の朝は小雨。子供たちがヨーヨー釣りやスパーボールすくいなどのゲームを日陰で楽しめるようにと大テントの設営が始まり、焼き鳥・フランクフルトその他の売店の準備、祭礼用の大ちょうちんの飾り付けなど、忙しく立ち働きのながらも、四年ぶりのお祭りで子供たちは来てくれるのだろうか、心配を口にする方もちらほら。そんな心配を吹き飛ばすかのように昼からは陽が覗き、今度は猛暑が心配になって来たが、三々五々子供たち同士グループや親子連れ、中にはかわいい浴衣姿のお子さん

も集まって来られて、太鼓とおみこしの巡行が始まる午後三時には境内は人で一杯になった。その約一時間前には、いつものように國領神社の神主さんにお願いで、おみこしへの入魂とお祭りの無事を祈る神事を執り行っている。

主に小学校低学年までの子供たちが引き綱を持つ太鼓と、高学年生が担ぐおみこしの巡行には、事故の無いようにと調布市消防第四分団の方々も同行して、九日と十日の両日それぞれ三十分ほどの行程で町内を練り歩いた。以前お祭りに来たことがある子供たちは覚えていたかも知れないが、巡行に参加した子供たちと、付き添いで一緒に歩いてくれた保護者には、白山宮に帰着した後に土産が配られるのだ。ゲームや売店で

既にごった返している境内に、並んでお土産を受取る列ができて、お祭りの人出は最高潮となり、九日は午後五時、十日は午後四時に終了するまで、白山宮の境内には子供たちの歓声が響き渡っていた。配られたお土産の数から巡行に参加した子供たちは、九日は125名、十日165名、付き添いの保護者は各68名・72名を数え、三年間のブランクは無かったかのような地域のお祭りの復活だった。

（文・藤田秀雄）



布田南自治会長 河江秀俊様
-心よりお悔やみ申し上げます-

朝日 敏幸さん

（あさひ としゆき）



Toshiyuki Asahi

深大寺を開所し、重い障がいのある方を対象に運営している。社協でのお仕事の傍ら、朝日さんがライフワークの一つですと言われるのが、自ら代表を務めるチームコブラの活動だ。始められてからもう三十二年、今年の二月グリーンホールの小ホールで開催するのが二百九十七回目という、何とデイスコパーティー。朝日さんらしく「バリアフリーな」という言葉が挿入されている。



アトリ



ユキ

ど、朝日さんによれば、「スタッフが介護や支援のことを知らない人達だったのがかえって良かった」そうで、心のバリアフリーを持って参加者全員を巻き込み楽しく盛り上がった。その後、コロナ禍での中断はあったものの、今はジャズとロックのライブハウスとなったお店で二か月に一回、年に一回はグリーンホールなど大きな会場で、バリアフリーなデイスコパーティーが続いている。（チームコブラ事務局090-2310-5111）

また、社協が運営を受託している市民活動支援センターに、朝日さんが異動されたことと前後して発生した東日本大震災では、市民ボランティア活動のリーダーとして、水木しげるさん作のマンガ「遠野物語」のご縁で活動拠点を置かせて下さった岩手県遠野市に、ボランティアバスを四十回ほど派遣された。

こうして忙しく活動を続けられた後、二年前に六十歳を迎えられた朝日さんは社協を定年退職されたのだが、ある日偶然通りかかった若葉台の駅近くでヤギのエコ除草を見かけると、すぐにヤギのレンタル会社の社長を訪ね、市職員など関係者を説得し、下布田遺跡でヤギが活躍するようになったのだ。

朝日さんのお話を伺って、ご自分の言葉では「社協職員の性」と言われるが、地域の人を巻き込んでみんながハッピーになる機会を、いつも虎視眈々と探している様子を探しておられる気がした。これからもきっと、それを続けていかれることだろう。

（文・藤田秀雄）

いを負い車椅子生活となった青年から、「デイスコに行きたいのだが、あちこちの会場に電話しても、車椅子では安全を確保できないからと断られてしまった」という話を聞いて、市内の飲食業のオーナーさんが小島町で運営していた「コブラフリーク」というお店で、誰でも参加できるデイスコパーティーを店長さんと一緒に実現していった。その行動力は、朝日さんらしさを象徴するもの。

実はこのお店は地下にあり、店内のダンスフロアには更に階段を降りる必要があるなど、とてもバリアフリーに向いているとは言えない設えなのだ。危なっかしいが四人がかりで車椅子を担いで降ろすな